



11/8 自衛隊記念日行事・祝賀会



11/9 佐世保自衛隊パレード



12/5 護衛艦はるさめ帰国行事(写真:佐世保地方総監部Xより)



12/10 水陸機動団 令和7年度レンジャー帰還式

■海上自衛隊佐世保教育隊入隊式
10月2日(木)、第24期一般海曹候補生課程の入隊式が執り行われました。全国各地から入隊した51名(うち長崎県出身者4名)は、約5ヶ月間にわたり、海上自衛官としての基礎素養の習得に励みます。

■10月例会 防衛講話・懇親会
第2護衛隊群司令 江畑泰孝海将補

10月14日(火)に、当会の10月例会を開催し、54名が出席しました。海上自衛隊第2護衛隊群司令 江畑泰孝海将補より、「海上自衛隊の現状」と題して、71年にわたる第2護衛隊群の歴史や、来春予定されている部隊改編等についてご講演いただきました。防衛講話の内容は、4・5頁で紹介いたします。

■自衛隊長崎地方協力本部 創立70周年記念行事

11月7日(金)、長崎市内で自衛隊長崎地方協力本部創立70周年記念行事が開催され、県内各地の後援団体等から約180名が出席しました。自衛隊長崎地方協力本部は、昭和30年9月1日に「自衛隊長崎地方連絡部」として陸上自衛隊大村駐屯地に編成され、昭和59年に現在の長崎市出島町に移転、平成18年7月に防衛庁設置法等の改正により、自衛隊長崎地方協力本部に改編されました。防衛省・自衛隊の共同機関として募集業務・援護業務・予備自衛官の管理等の業務を担っています。

■佐世保地方 自衛隊記念日行事

11月8日(土)、海上自衛隊平瀬武道場・体育館で令和7年度自衛隊記念日行事の記念式典・祝賀会が開催されました。祝賀会には県内外から約700名が参加し、

交流を深めました。会場では「させば自衛隊グルメ」認定の3店舗が、部隊お墨付きのカレーやミニ佐世保バーガーを提供し、参加者は食べ比べを楽しんでいました。

■佐世保自衛隊パレード

11月9日(日)、三ヶ町・四ヶ町アーケードで令和7年度佐世保自衛隊パレードが開催され、海上自衛隊、陸上自衛隊、米海軍の3部隊合わせて約300名が力強く行進しました。当後援会青年部では、今年も日米国旗の小旗を配布。多くの市民が日米国旗を振って、隊員たちへ大きな声援を送りました。

■護衛艦はるさめ帰国行事

第51次派遣海賊対処行動水上部隊として、ソマリア沖アデン湾に派遣されていた「護衛艦はるさめ」が、約6ヶ月に及ぶ任務を終えて12月5日(金)佐世保に帰港し、帰国行事が執り行われました。倉島岸壁には400名以上の家族が集まり、無事の帰国と久々の再会を喜ぶ姿が見られました。現在は第52次隊として、横須賀を母港とする「護衛艦おなみ」が派遣されています。

■令和7年度レンジャー帰還式

12月10日(水)、陸上自衛隊相浦駐屯地にレンジャー帰還式が行われました。陸上自衛隊の中で最も過酷とされるレンジャー訓練。体力・気力を限界まで練成し、最後は4日間不眠不休で敵地を想定した場所への潜入や襲撃などの機動訓練を行います。数々の困難な訓練を完遂した選ばれし22名に、武者利勝団長より、「ダイヤモンドより固い意志」をあらわすレンジャー徽章が授与されました。

新年のご挨拶

佐世保自衛隊後援会会長 金子卓也

佐世保自衛隊後援会だより

(発行) 佐世保自衛隊後援会
会長 金子卓也
佐世保市湊町6番10号
(佐世保商工会議所内)
TEL (0956)22-6121



明けましておめでとうございませす。会員の皆様におかれましては、お健やかに新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

近年、我が国を取り巻く安全保障環境は、国際情勢の緊迫化に伴い一層厳しさを増しております。このような中、自衛隊の皆様は、国民の命と平和な暮らし、そして我が国の領土・領海・領空を断固として守り抜くため、日々厳しい訓練に励み、休むことなく警戒監視や海外任務に従事されております。また、大規模自然災害等における救助・復旧活動においても多大なご尽力を頂いておりますこと、改めて深く感謝申し上げます。

さて、昨年は本市の主要産業である造船業にとって、追い風となる動きが見られました。内閣府の成長戦略において、防衛・造船分野が宇宙やAIと並ぶ最重要戦略分野に位置づけられ、造船業振興に向けた総額1兆円の官民投資、さらには日米両国による造船能力

拡大に向けた協力覚書が締結されました。今後、防衛および造船業への集中的な投資が期待される中、当地佐世保においては地の利を生かし、防衛産業企業の立地を促進することが急務であります。これは地域の活性化のみならず、我が国の安全保障体制の強化にも直結するものであり、防衛産業を核とした新たな産業基盤の形成に尽力してまいります。

また昨年は、自衛官の処遇改善に向けた取組が大きく前進した年でもありました。手当等の新設や金額の引き上げをはじめ、営内隊舎の通信環境整備や個室化が進められております。当会といたしましては、隊員の処遇改善はもとより、隊員のご家族が佐世保で安心して生活できる環境づくりが極めて重要であると考えております。官舎整備の促進や、買物・子育て環境の充実を図り、隊員の皆様が心置きなく任務に専念できる環境整備に、引き続き取り組んでまいります。

こうした取組の一環として、当会

では、関係機関と連携し、独身の自衛隊員と地元女性との新たな出会いの場を創出するとともに、結婚後も佐世保で安心して暮らして頂くことを見据えた婚活事業を実施してまいりました。本事業は2023(令和5)年度から開始し、これまでに8回実施しております。

昨年11月に相浦駐屯地で開催した「水陸機動団婚活・恋活パーティー」には、隊員と県内女性合わせて40名が参加しました。さらに、海上自衛隊佐世保地方総監部で開催された「海恋パーティー」には30名が参加し、隊員皆様との交流を深める機会となりました。加えて、新たに着任された自衛隊員やそのご家族に佐世保の魅力ある飲食店を紹介し、安心して楽しく佐世保の町を楽しんで頂くことを目的に「SASEBOよるバルMAP」を作成し、大変好評を得ています。

さて、本年3月には、海上自衛隊の大きな部隊改編が予定されて

おり、佐世保には水陸両用戦機雷戦群(仮称)の司令部が設置される予定です。これにより、効果的かつ効果的な部隊運用や、水陸機動団との連携強化による統合運用の向上が図られ、佐世保は今後ますます重要な防衛拠点となつてまいります。

佐世保自衛隊後援会は、防衛講話等を通じて、自衛隊と市民との相互理解と親睦を深めるとともに、防衛思想の高揚に努めてまいります。これからも自衛隊と地域住民との揺るぎない懸け橋として、国防の重要性を共有し、佐世保の安定と発展に寄与してまいります。会員の皆様には引き続き格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様をはじめ、自衛隊員の皆様ならびにご家族の皆様のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

2026(令和8)年元旦

長崎県防衛協会会長
長崎県知事 **大石賢吾**



明けましておめでとうございませう。
佐世保自衛隊後援会の皆様、そして自衛隊及び関係団体の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

佐世保自衛隊後援会におかれましては、日頃から自衛隊に対する理解の促進や海上自衛隊佐世保地方隊、陸上自衛隊相浦駐屯地等の活動へのご支援など幅広く活動されておりますことに深く敬意を表します。

さて、近年の我が国を取り巻く厳しい安全保障環境の中、自衛隊の皆様は「わが国の平和と独立を守り、国民の安全を確保する」という崇高な使命のもと、日々厳しい訓練を重ねられ、国家防衛、災害派遣活動など様々な活動を通して国内外から厚い信頼と高い評価を得られております。県内の自衛隊関係では、

昨年7月、オスプレイが陸上自衛隊佐賀駐屯地に移設されたことにより、本県に拠点を置く水陸機動団との連携が一層強化され、南西諸島を含む我が国の防衛体制の即応性が大きく向上することが期待されております。

また、海上自衛隊においては、令和7年度末に「水上艦隊(仮称)」が新編され、佐世保市に「水陸両用戦機雷戦群(仮称)」司令部が設置予定です。機雷除去による航路確保や水陸機動団との連携による迅速な部隊展開が可能となり、我が国の安全保障において極めて重要な役割を果たされるものと考えております。

多くの離島や半島を有する本県にとって、自衛隊の存在は、大変心強く、雲仙普賢岳噴火災害における派遣活動をはじめ、多くの災害派遣に出動していただいております。海上自衛隊による離島地域からの急患搬送は、昭和33年の開始から既に5、300回を超えるなど、多くの県民の命を救っていただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

今後とも、長崎県防衛協会といたしましては、佐世保自衛隊後援会と連携し、自衛隊に対する協力支援、県民の防衛意識の高揚に努めてまいりたいと存じます。

県では昨年、令和8年度からの5年間の指針となる「長崎県総合計画 みんなの未来図2030」を策定しました。「ながさきの誇りと希望を力に、みんなで夢あふれる未来をひらく」を基本理念に掲げています。同じく昨年策定した「ながさきブランドینگ・情報発信戦略」やロゴ等も活用しながら、引き続き、多方面から選ばれる「新しい長崎県」の実現に挑んでまいります。佐世保自衛隊後援会の皆様には何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、佐世保自衛隊後援会の限らないご発展並びに関係皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



佐世保市長 **宮島大典**



あけましておめでとうございませう。
佐世保自衛隊後援会の皆様、自衛隊及び関係団体の皆様におかれましては、令和8年の輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

佐世保自衛隊後援会におかれましては、日頃から自衛隊に対する理解の促進や海上自衛隊佐世保地方隊、陸上自衛隊相浦駐屯地等の活動へのご支援、ご協力のほか、地域経済の発展に寄与する幅広い活動を続けておられますことに深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は、日々厳しさを増し、戦後最も厳しく複雑なものとなつています。中国は国防費を増加させ、軍事力の質・量を強化し、尖閣諸島周辺を含む東シナ海や太平洋などでの活動を活性化させています。

北朝鮮は大量破壊兵器や弾道ミサイルなどの増強に取り組み、弾道ミサイルなどの発射を繰り返しています。ロシアはウクライナ侵略を継続するとともに、北方領土を含む地域での活発な軍事活動を行っています。

このような中、自衛隊の皆様は我が国の平和と独立を守るため、我が国周辺空域の警戒監視や海外での実任務活動、演習・訓練に加え、大規模自然災害にも即時に対応できるよう日々訓練に精励されておられますことに、国民の一人として深く感謝する次第です。また、このような自衛隊の活動を佐世保自衛隊後援会の皆様が支援しておられることは、大変意義深いことと存じます。

明治22年の佐世保鎮守府開庁以来、佐世保市は、戦前は海軍、戦後は海上自衛隊、陸上自衛隊と密接な関係の下に発展して参りました。本市が実施いたしました基地経済に係る調査の結果によりますと、基地からの発注や基地関係者による消費効果は市内総生産の約1割を占め、地域経済に大

きく貢献していることが示されております。

また、現在、国においては、国内造船業の再生に向けた総合経済対策の一環として、造船業の生産基盤強化や研究開発支援が進められています。

こうした国の動きは、佐世保の造船産業にとつても大きな追い風となるものと期待しているところです。今後も基地を重要な地域資源であると捉え、基地の所在によつてもたらされる雇用機会の創出、地域経済の活性化といった効用を広く市民が享受できるように、基地の所在を積極的に活かしたまちづくりの推進に取り組み、市勢の発展に繋げて参りたいと考えておりますので、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

佐世保自衛隊後援会会員の皆様をはじめ、自衛隊員の皆様並びにご家族様のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともに、本年も素晴らしい年となりますようお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

海上自衛隊 佐世保地方総監
海将 **福田達也**



新年あけましておめでとうございませう。

佐世保自衛隊後援会の皆様におかれましては、令和8年の新春を穏やかに迎えられることとお慶び申し上げます。また、平素から防衛省・海上自衛隊、とりわけ佐世保地方隊に対し、深い御理解を賜りますとともに、私どもの活動を支える作戦基盤の維持や自衛隊員の募集、就職支援など、万事にわたり御支援と御協力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、新しい年を迎えても、世界情勢は混沌としており、先行きが見通せない中、我が国を取り巻く安全保障環境も依然として厳しい状況が続いています。佐世保地方隊は、戦略的要衝である東シナ海、そして、東シナ海から太平洋、日本海、南シナ海へと通じる国際海峡を、警備区に擁し、

日本の海上防衛の最前線ともいうべき「西海の護り」を担任しています。一たび当警備区において不測の事態が生起すれば、我が国の存立と発展が阻害されることから、我々佐世保地方隊は、戦略的要衝を擁する広大な警備区の「護り」をより強固なものとしていかなければなりません。

今年一年、佐世保地方隊は、国民の皆様にご「安全と安心」を提供するとともに、「地域社会の皆様へ愛される」「佐世保地方隊を創り上げ、警備区の「護り」をより強固なものとするために一層任務に邁進する決意を新たにしたいと考えております。

本年は「丙(ひのえ)午(うま)」の年であり、「丙(ひのえ)」は、「万物を明るく照らす太陽」を表しており、「午(うま)」は、「華やかで力強く活発な様子」を表しています。「丙午」の年は、「太陽」のように明るく輝き、「馬」のように力強く前進するイメージから「飛躍と成長」の一年になると言われます。我々、佐世保

地方隊は年度末、すなわち3月末には大きな部隊改編も控えています。各部隊は新たな門出を迎え、「より精強で、より誠実な組織」へと「飛躍と成長」を遂げる一年となるよう精進を続けて参る所存でございます。倍の倍の御指導と御鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

結びに、佐世保自衛隊後援会の今後益々の御隆盛と会員の皆様様の御健勝と御多幸、そして、令和8年が平穏で実り多き一年となることを心より祈念申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。

本年は「丙(ひのえ)午(うま)」の年であり、「丙(ひのえ)」は、「万物を明るく照らす太陽」を表しており、「午(うま)」は、「華やかで力強く活発な様子」を表しています。「丙午」の年は、「太陽」のように明るく輝き、「馬」のように力強く前進するイメージから「飛躍と成長」の一年になると言われます。我々、佐世保



陸上自衛隊 水陸機動団長
兼相浦駐屯地司令 陸将補



明けましておめでとうございませう。

佐世保自衛隊後援会の皆様におかれましては、心穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には平素より陸上自衛隊水陸機動団及び相浦駐屯地・崎辺分屯地に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

令和7年3月に再びこの相浦の地において第5代水陸機動団長兼ねて相浦駐屯地司令を拝命し、多くの皆様の御理解と御協力を頂いたことに改めて感謝申し上げます。引き続き皆様との連携を密にして任務に邁進して参る所存ですので、変わらぬ御指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

さて、我が国周辺では周辺地域が急速に軍備を増強し、力による一方的な現状変更の試みが増すとともに、ロシアによるウクライナ

武者利勝

ナ侵略が示すように、国際社会は戦後最大の試練の時を迎えています。既存の秩序は深刻な挑戦を受け、新たな危機の時代に突入し、我々の暮らす東アジアにおいても、戦後の安定した国際秩序の根幹を揺るがしかねない深刻な事態が発生する可能性を排除できません。我々は、そのような事態となることを決して許すわけにはいきません。いかに厳しい時代、環境であろうとも、国民の生命と平和な暮らし、我が国の領土・領海・領空を断固として守り抜く力をもつて、「日本は手ごわい」「日本を攻めても失敗に終わる」と周辺国に知らしめることが必要です。

水陸機動団は、創設8周年を迎えますが、引き続き米海兵隊との共同訓練、海上・航空自衛隊との統合訓練、多くの同志国との連携強化のための多国間訓練により、南西地域等における鳥しよ防衛に係る抑止力・対処力を強化するとともに、警察、海上保安庁との連携を深め、部隊の能力を

着実に積み上げてきています。本年も予断を許さない国際情勢の中、国民、地域の皆様への大きな期待を自覚し、地域の方々に信頼される強靱で健全な部隊となるべく、陸上自衛隊「唯一」の水陸両用部隊としての誇りを胸に、水陸機動団長自らが先頭に立つて各種任務を遂行して参る所存です。また、隊員が「これからも佐世保で勤務したい」と熱望し、佐世保に根付いてもらうことも、重要な要素でありますので、地域の皆様様の御理解と御支援をお願い申し上げます。

結びに、本年も水陸機動団及び相浦駐屯地・崎辺分屯地に対する変わらぬ御理解と御支援をお願い申し上げます。佐世保自衛隊後援会の皆様におかれましては、市民・国民の国防意識高揚のため、より一層のお力添えを賜らんことをお願い申し上げます。新年のご挨拶に代えさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

小泉防衛大臣 長崎県訪問

小泉進次郎防衛大臣が令和7年12月21日～22日の日程で長崎県を訪問されました。21日(日)は水陸機動団を視察され、佐賀駐屯地に配備されている輸送機V-22オスプレイと、輸送ヘリコプターCH-47による訓練や、隊員による水中への飛び込み訓練等を見学。また、水陸両用車AAV7に自ら乗り込み、機動性を確認されました。部隊視察後には、地元自衛隊協力団体や隊員ご家族との交流の場が設けられました。

翌22日(月)は、長崎市の三菱重工長崎造船所で行われた海上自衛隊の多機能FFM12番艦の命名・進水式に、齋藤聡海上幕僚長らとともに出席されました。護衛艦「よしい」と命名された最新護衛艦は、令和8年度中に防衛省に引き渡される予定です。

金子会長 小泉防衛相と面会

水陸機動団の視察後に設けられた地元自衛隊協力団体との面会に、当後援会より金子卓也会長が出席しました。金子会長は、前畑弾薬庫の早期移転や隊員の住環境整備等を要望するとともに、「させば自衛隊グルメ」や婚活パーティーの開催など、当後援会の取組みを紹介。小泉防衛相の地元である横須賀との対比などで大いに盛り上がりました。小泉防衛相からは、日頃の支援に対する感謝と、防衛大臣として「隊員一人ひとりとそのご家族を守り抜く」という決意の言葉が伝えられました。



写真提供：水陸機動団



海上自衛隊 FFM12 番艦 命名・進水式

海上自衛隊護衛艦の多機能フリゲート艦(FFM)12番艦は「よしい」と名付けられました。艦名は、岡山県の三国山に源を発し、児島湾に注ぐ吉井川が由来です。

FFMは1番艦「もがみ」以降12隻が順次建造されており、「よしい」は最後の1隻となります。以降は、能力を向上させた新型FFMが建造される予定で、もがみ型の能力向上型は、オーストラリア海軍の次期汎用フリゲート艦計画を巡り、令和7年8月に共同開発のベースとして採用されています。

写真：佐世保地方総監部 X より

護衛艦「ちょうかい」慰問 @ サンディエゴ

アメリカ合衆国カリフォルニア州の最南端に位置するサンディエゴ市は、温暖な気候、豊かな海岸線、国境に近い多文化性で知られる国際都市です。サンディエゴ港には1922年に米海軍の基地が置かれ、現在では太平洋艦隊における主要基地として艦艇約60隻が配備されており、地域の経済を支える重要な柱となっています。

今後の佐世保港及び佐世保市の発展のあり方の参考にするため、また、日本(佐世保)の造船所における米海軍艦船整備の早期実現に向けて、金子卓也会長をはじめとする当後援会役員は、宮島大典佐世保市長、久野秀敏佐世保市議会議長等とともに、令和7年11月16日～18日の日程でサンディエゴを訪問しました。

サンディエゴ市の概要

- 【設立】1769年
- 【面積】964.51 km²
- 【人口】約140万人(全米で8番目)
- 【特徴】
 - ・アメリカ西海岸有数の都市。
 - ・温暖で雨が少なく、年間を通して穏やかな気候。
 - ・USS ミッドウェイ博物館や世界有数の動物園など観光スポットが豊富。
 - ・基地に関連した産業に加えて、情報通信関連やバイオ、製薬、医療機器の企業等が集結。



海上自衛隊 護衛艦「ちょうかい」慰問

佐世保を母港とする護衛艦「ちょうかい」は、極めて高い広域防空能力と弾道ミサイル防衛(BMD)能力を有するイージスシステム搭載艦です。

防衛省が進めるスタンド・オフ防衛能力の強化を図るべく、令和7年9月から約1年間、巡航ミサイル「トマホーク」発射能力の獲得のため、サンディエゴ海軍基地に派遣されています。田中信也艦長、藪崎剛副長、花田敬先任伍長等を慰問し、激励を行いました。



サンディエゴハーバークルーズ 基地、造船等が共存する港の様子を見学



サンディエゴ市役所 トッド・グロリア市長と面談



サンディエゴ港湾公社 まちづくりや港湾管理について意見交換

講談 衛防

「海上自衛隊の現状について」

海上自衛隊第2護衛隊群司令

海将補 江畑泰孝



平素から自衛隊へのご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございます。

私は平成11年3月に防衛大

学校を卒業し、防衛省に入つて今年で26年目になります。佐世保には深い思い出がありまして、初任地が当時佐世保を母港としていた「護衛艦やまざり」(現在は練習艦として呉に配備)の通信士でした。その後も「くらま」「いそゆき」、第2護衛隊群で幕僚を経験した後には、そのまま「きりさめ」の艦長を務めました。そして今回、第49代第2護衛隊群司令として着任し、佐世保で通算約7年半の間、勤務を重ねてまいりました。街の方々との距離感が非常に近く、とても楽しく勤務させていたいただいております。

■海洋国家としての日本

我が国日本の立ち位置を改

めて確認しますと、国土面積は世界62位と小さいものの、領海と排他的経済水域(EEZ)を合算すると、世界第6位の海洋国家となります。約1万4千の島々を持つ島国として、遠くは沖ノ島、南鳥島、そして北方領土、竹島、尖閣諸島といった東西南北に広がる領土をいかに守るかが、我々の使命となります。

また、我が国の経済は、その海洋性に深く依存しています。年間約8億トンに上る貿易量(重量ベース)のうち、海上輸送が占める割合は99.6%と、ほぼ海上輸送に頼っている状態です。エネルギー自給率も約13%と低い上に、原油輸入の約92%を中東に依存しており、海上交通路、すなわちシーレーンの安全確保がいかに大事かということが分かります。最近では、イエメンのホーシー派による紅海での一般商船への攻撃事案によって、船が航路を喜望峰周りに変更せざるを得ないといった事態も発生しました。

さらに情報通信の分野でも、国際通信の99%を海底ケーブルに依存しており、これに対する防護も新たな安全保障上の課題です。海底に埋まっているケーブル自体を守ることが難しいですが、陸揚局と呼ばれるケーブルが集まる施設へのサイバー攻撃や通信傍受を防ぎ、我が国の通信環境をいかに守るかが重要な防衛線となっています。

■第2護衛隊群の編成と歴史

海上自衛隊の組織において、第2護衛隊群は自衛艦隊隷下の護衛艦隊に所属しています。佐世保地方隊は防衛大臣直轄の部隊であり、指揮系統は分かれています。佐世保に配備されているのは、「第2護衛隊」所属の「はるさめ」「あさひ」「あしがら」の4隻。そして横須賀にも「第6護衛隊」所属の「てるづき」「たかなみ」「おこなみ」「きりしま」の4隻が配備されています。では、佐世保に沢山いる護衛艦は誰の指揮下にあるかという点、第1護衛隊群司令の指揮下にある「第5

護衛隊」、第4護衛隊群司令の指揮下にある「第8護衛隊」に所属しています。第2護衛隊群司令である私が、佐世保を母港とする艦を全て指揮していると思われている方がいますが、実は直接指揮できる艦は佐世保には4隻しかありません。一方で、管理や訓練の一部については、指揮ではありませんが統制を執っています。

第2護衛隊群の歴史は古く、昭和28年8月、日米船舶貸借協定に基づき米軍から払い下げられた艦を含む13隻をもって、海上自衛隊の前身である海上警備隊の中に、「第2船隊群(第2護衛隊群の前身)」が編成されました。その後、昭和29年の海上自衛隊創設と同時に、「第2護衛隊群」が佐世保に新編されました。4つの護衛隊群のうち、第2護衛隊群は70年超の歴史の中で、司令部の所在地を変えることなく、一貫して佐世保に留まり続けている護衛隊群です。

■海上自衛隊の目標と活動

海上自衛隊の活動は、「我が国の防衛」「海上交通の安全確保」「望ましい安全保障環境の創出」の三つの目標を柱としています。そして、目標達成のために関係省庁と連携しつつ、統合運用の下、あらゆるエスカレーションに対応し活

動を実施しています。

まず「環境の形成」については、平素から友好的な関係を築き、入港できる港を増やしておくため、親善訪問・親善訓練や、国際緊急援助活動を実施しています。共同訓練の回数は年間約40ヶ国と、180回以上にのぼります。令和7年5月には、インド太平洋方面訓練(IPD)に佐世保から「いせ」が参加しました。また、8月に実施された日英米豪西諸共同訓練には護衛艦「かが」と「てるづき」が参加し、私も第2護衛隊群司令でありながら、第4護衛隊群所属の「かが」に乗艦して指揮を執りました。実習幹部を乗せて世界各国を回る遠洋練習航海も、世界中に海上自衛隊の活動を広める重要な役割を担っています。

新たな話題では、令和7年8月にオーストラリア政府より、次期汎用フリゲートプログラムとして我が国の「もがみ」型護衛艦を選定したとの発表がありました。今後、契約が順調に進んでいけば、日豪で共同開発・生産が進められ、環境の形成を更なる高みに引き上げる大きな一歩になると期待されます。

「平素からの抑止・対処」については、警戒監視活動や共同訓練を行っています。派遣海賊対処行動は、シーレーン

を守るという我が国の利益だけでなく、国際社会の中でデン湾に常時1隻を派遣しています。派遣海賊対処行動には必ず海上保安官が乗艦します。というのも、海上自衛隊は司法警察権を持たないため、海賊の逮捕・護送は、司法警察職員である海上保安官に対応してもらう必要があるためです。私は26次隊として従事しましたが、実は、井上前佐世保海上保安部長は第25次隊として派遣されており、アデン湾での引継ぎの際にお会いしたという縁があります。

日本の周辺海域では、北朝鮮のタンカー同士の瀬取り行為や、弾道ミサイル等の監視を、24時間365日態勢で行っております。平成11年の能登半島沖不審船事案発生以降、警戒監視活動においても海上保安庁との連携を進めています。

「有事への対応」というところでは、CPX(コマンドポストエクササイズ)という凶上演習で実施する部分が多いです。仮想の事態(災害や軍事作戦など)に対して、司令部要員が情報伝達、情報判断、意思決定、指揮統制などの一連のプロセスを机上で訓練するものです。

■防衛力抜本的強化の進捗

令和4年に策定された「戦略3文書」に基づき、海上自衛隊は7つの重視する機能・能力の抜本的強化を推進しています。

スタンドオフ防衛能力の獲得は喫緊の課題です。現在、佐世保から「ちようかい」が米国に渡り、艦船の改修や乗員訓練を進めており、令和7年度中にトマホークの発射能力を獲得する予定です。これは、予定より1年前倒しでの配備となります。また、12SSM能力向上型という対艦ミサイルの長射程化も開発が順調に進んでおり、令和8年度に開発が完了する見込みです。また、垂直発射型のミサイルを発射できる潜水艦を作るための研究もなされています。

統合防空ミサイル防衛能力の強化については、イージス・システム搭載艦2隻を建造中です。これらは海上自衛隊の護衛艦の中で最大級の艦となり、令和9年度に1隻目、令和10年度に2隻目の就役を予定しています。これにより、イージス艦、イージス・システム搭載艦を含めて10隻体制に増勢される予定です。

領域横断作戦能力の確立も進められています。「いずも」型護衛艦の改修を完了し、航空自衛隊のF-35B戦闘機の

運用を可能にすることは、海空の兵力を統合した領域横断作戦の具体例です。このほか、無人アセットとしてMQ-9シーガーディアアンや、艦載型無人航空機の導入も計画されています。

■第2護衛隊群の解体と水陸両用戦機雷戦群(仮称)の新編

防衛力強化の体制を構築するため、海上自衛隊の組織も大幅な変革を迎えます。護衛艦隊と掃海隊群が今年度末に合体し、水上艦隊(仮称)として新編されます。高い迅速性と増加する活動量に対応し、部隊運用を持続的に遂行可能な体制とするために、シンプレックスな指揮系統を実現させるものです。現在の4個護衛隊群は3個の水上戦群へと集約されます。

この改編の結果、佐世保に所在する第2護衛隊群は今年度末をもって解散されることとなります。これは長きにわたる佐世保の歴史において大きな変化ですが、重要なのは、横須賀にある掃海隊群の司令部を佐世保に持つことで、水陸両用戦機雷戦群(仮称)の司令部が佐世保に配置されるということです。この組織改編後も、佐世保に配置されている艦の数は維持されます。司令部は入れ替わりますが、

佐世保が重要拠点であるという点は変わりません。

■人的基盤の強化と自衛官の処遇改善

装備がどれだけ良くなっても、それを支えるのは「人」であり、人的基盤の強化は最も重要な課題です。国民の皆様のご理解もあつて、令和7年度予算案では、処遇改善(150億円程度)と生活勤務環境改善(3、800億円程度)の予算が計上されています。自衛官の給与や各種手当も上げていただいております。民間企業との給与差を埋めることで、若い隊員の離職率を減らすようとしています。若い海士隊員は一定の年限が経つまで、営内や艦などの指定された場所でも、慣れない生活環境の中で、住まなければなりません。そこで令和7年4月から「指定場所生活調整金」が新設され、年間20万円が採用から6年間支給されるようになりました。新しい艦の居住区については、カプセル型のベッドを導入し、少しでも個室空間、生活しやすい環境を確保できるようにとの検討が進められています。また、海上自衛隊の採用広報アンバサダーに「カイジョウジエイ鯛くん」というキャラクターを採用し、海上自衛隊の職種を知ってもらうために、ちよつと砕けた宣伝にも

取り組んでいます。さらに、女性自衛官の活躍も積極的に推進しています。女性自衛官の総数は約4200人で、海上自衛官全体の約9%です。配置制限は既に撤廃されており、潜水艦や特殊部隊の門戸も開かれています。夫婦ともに自衛官というケースが多いため、男性隊員による育児休暇の取得など、男性・女性それぞれがキャリアを調整しながら、子育てを支援する体制も強化されています。最後に「海上自衛隊基本ドクトリン」をご紹介します。これは、任務遂行にあたって準拠すべき思想や考え方をまとめた文書であり、佐世保出身の齋藤聡海上幕僚長が尽力して作成したものです。隊員だけでなく国民の皆様にも、海上自衛隊の哲学を広く知っていただくために作成されました。

第2護衛隊群の解体という大きな変革が予定されていますが、佐世保が防衛力強化の最前線基地としてその役割を担い続けることには変わりありません。今後も変わらぬ皆様からのご支援をお願い申し上げます。